

福島大学行政政策学類同窓会

阿武隈会報

第25号

発行年月日	令和元年9月1日
発行所	福島大学行政政策学類同窓会阿武隈会 〒960-1296 福島市金谷川1番地
発行人	小田島 拓 哉
編集者	堀江 正樹・吉田 誠 工藤 真之・渡邊 弘利 矢内 祐紀・加藤 千里
題 字	大谷 明夫 (初代行政社会学部長)

会員のあなたへ、考えが 違うあなたへ

阿武隈会長

小田島 拓 哉



かつて鈴木典夫学類長が、「ボランティアは主語が『私』になっては終わり。二人称でなくては」と教えて下さいました。

同窓会である阿武隈会も同様でしょう。皆さま会員のニーズを追究し、活動しています。

さて今年度母校は学内再編、食農学類を設立し、その分行政政策学類の定員は減りました。それは同時に入学者の納める会費から成る、阿武隈会の毎年の収入が減るということです。

現在、総会・懇親会や地方懇親会などのイベント、卒業記念パーティー補助100万、学類への補助、この会報などの広報、会員の個人情報管理などを事業としています。毎年見直ししていますが、収入減は正直厳しいところです。

ところで、唐突ですがタコの話。タコは無脊椎動物として最も賢く、学習能力の高さ、好奇心の高さ、目的不明の遊びをしているとしか思えない行動などが知られています。

このような「賢さ」を示すタコは5億年前に進化の枝分かれし、解剖学的にはヒトに代表される脊椎動物とは全くの別系統にあります。無脊椎動物の中で、タコは最も大きくかつ複雑な、5億個(イヌ並)のニューロンからなる脳-神経系を持つそうです。しかもそれは全身に分布し、3分の2は8本足にあるらしいので、中央集権的な脳-神経系の脊椎動物とは大きく異なります。ちなみに人間のニューロン数は1000億個とのこと。

或いは、タコは地球における異なった知性なのかもしれません。ヒトは、イヌと理解し合えてもタコとはできないかもしれない。しかし、例えばそれは、算数が分からないから数学が理解できない、とは別次元の話です。更に視点を引き寄せれば、ヒトも時代や場所等によって価値観は変化するし、同時代でも互いに分かり合えない価値観もあるでしょう。

ただ、そんな大袈裟な話ではなく、阿武隈会は、よりあなたの役に立ちたいのです。

各地の懇親会で、あなたの生の話を伺いたいのです。あなたとは考えが違うかもしれませんが、それこそが刺激、阿武隈会が変わる機会かもしれません。

あなたが、阿武隈会に望むことは何ですか？

新しい学類のスタート

行政政策学類長

鈴木 典 夫



「阿武隈会」の皆様には平素より学類運営にかかわりご協力を賜りありがとうございます。福島大学では「食農学類」が誕生し、つなぎ服を着た学生が往来するなど新鮮な風景が見られます。また、昨年度には行政社会学部・行政政策学類創設30周年の節目を終え、31年目のスタートを切りました。

今期本学類では、昼間学生195名、夜間主学生21名、編入学生9名、留学生1名、計226名が入学しました。大学全体では北関東からの合格者が大幅に増加し、大学全入学者の中、県内44.4%、県外が55.6%の割合となりました。逆に本学類は、県内が51.2%とこの10年間で最も高い数字となりました。一般入試定員が減り、前後期受験者数は、539人から390人と大きく数を減らしましたが、前期も後期も行政政策を志願した者は例年以上に多かったことが特徴です。さらに、入学辞退率が3.2%と過去に例のない数字となっています(福島大学全体では約12%)。推薦入試では、25名を42名に増員させた結果、過去最高の93名の志願者がありました。今期の入学生は「福島大学行政政策学類に入学したい」という意思がはっきりしている者が多かったのではないかと思います。また、夜間主教育を大学内で唯一維持する学類となりましたが、社会人や様々な理由から夜間に学びたいという高校生計21名が入学しました。新生夜間主1期生として、学習意欲はこれまで以上に高い雰囲気です。授業が進められています。

教育組織では、「地域政策と法コース」「地域社会と文化コース」の2コース制になります。それに伴う教育改革も様々行われていますが、「地域に学び、地域とともに、地域に貢献する」という学類の在り方と「学際性」という学類の特性を生かした教育内容の充実は不変に努めていきたいと思っています。

新たな福島大学が始動しましたが、同窓会や後援会等を含む福島大学校友会組織がこの秋に発足予定です。また、国立大学運営交付金の減少から学類財政も年々厳しいものになっています。また、改善されたとはいえ大学院の定員未充足問題は解消に至っていません。今後も阿武隈会の皆様には、様々なご協力を仰ぐこととなるかと思いますが、よろしくお願いを申し上げます。

— 全学再編と学類の近況 —

教育研究評議会評議員 田村奈保子

【全学再編と大学創設70周年】

5月に新元号令和元年となり日本が新しい時代をスタートさせた今年、福島大学ではそれに先立つ4月に、全学再編により新生福島大学元年をスタートさせました。大学創設70周年でもある今年は、大きな変化と記念の年となりました。農学群食農学類が開設され、従来の人文社会学群（人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類）、理工学群（共生システム理工学類）と合わせて、3学群5学類への再編です。本学類には新たに216名の学類新入生、1名の私費外国人留学生、9名の編入・学士生を、そして研究科には15名の大学院生を迎えました。再編に伴う本学類の大きな変更点の一つは定員数で、210名から205名（昼間185名、夜間主20名）になりました。特筆すべきは夜間主の新設です。今年度より人文学群現代教養コースが廃止され、夜間に学びたい学生を本学類生として受け入れることになりました。また、卒業時に与えられる学士号（法学士・社会学士）に合わせて、地域政策と法コースと地域社会と文化コースの2コース制になったことも大きな変更点です。「地域」を冠したコース名は、地域とともにある学類という特性を明確に示しています。昨年度の本学類の卒業生は、98.1%という高い就職率で巣立っていきました。福島県内への就職者が若干多かったのが特徴で、また半数弱が公務員という傾向は続きながら多業種への就職が若干増えたのは就職市場が好況である影響かと思われます。大学に変化はあれど、在学生たちが各地で頑張っている先輩たちに続き大学生活で得た学びや経験をもって社会に飛び立っていけるようにと願いながら、大学運営にあたることには変わりはありません。

【学類イベントや学生の活動】

4月、新入生を迎え、昨年度はインフルエンザの流行で延期になった合宿ガイダンスを例年通り行うことができました。一安心でのスタートが切れました。

5月、本学類とホールアース自然学校福島校との間に連携協力に関する協定締結が結ばれました。ホールアース自然学校とは、日本型自然観の回復を目指すことを理念として30年以上人材育成や社会貢献を続けている組織です。この協定に基づく教育支援事業として、夜間主授業で連携講座(問題探究科目「アクティブリーダー論」)が開設され、夜間主生全員が受講しています。同月にはエネルギー・エージェンシーふくしまとのインターンシップに関する覚書も締結されるなど、周辺各市町村だけでなく様々な組織・団体からご協力をい

ただくことで、本学類での教育がより多様・多彩なものになっております。前述の協定締結に際して、「特色ある科目により新しい教育を実践し、地域と連携しながら教育や人材育成の充実を図りたい」との学類長の言葉がありましたが、今後も各所からのご協力をいただきながら、学類教育のより一層の充実を実現してまいりたいと思います。

同じく5月、あぶくま学生支援事業の選考が行われました。この事業は、阿武隈会から学びと地域活動に関わる学生の自主的な活動に1件上限10万円の助成をしていただくものです。3年目となる今年度は3件の応募があり、学生たちによる企画書提出とプレゼンを経て、いずれも地域と連携し地区の発展に寄与する事業と認められ、採択されました。ゼミ活動の延長として毎年継続して行われている事業もあります。写真の「豊間再興プロジェクト」もその一つで、取材や交流など今年度の活動を開始したということです。



地区まちづくり会での夏休み子どもの学校をお手伝い

この後も、創立70周年記念行事や福大祭など学類教員や学生が関わるイベントが予定されております。詳しくは大学HPなどでご確認いただき、機会を見つけて、どうぞ大学にいらしてください。

学類も大学も変化してまいりますが、本学類の魅力である学際性や地域に学び地域に貢献する姿勢を変えることなく、今後とも学生教育に地域貢献に、研究活動への邁進にと、各教員が連携し、また個々に、一層頑張っていく所存です。阿武隈会の皆様におかれましては、これからも本学及び本学類への多方面でのご理解ご協力を賜れますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。また、皆様のますますのご健勝とご多幸を心よりお祈りしております。

飯舘村と行政政策学類との連携事業を実施

行政政策学類では、平成29年4月に福島県相馬郡飯舘村との間で締結した「復興連携プログラム」協定に基づき、村役場やNPO法人、村内集落と様々な活動を企画・実施しました。

平成30年度は飯舘村佐須集落との共同による「ひまわり栽培と搾油プロジェクト」や、廃校を活用した交流イベント、大学生による村民聞き書き「自分史」作成プロジェクト等を展開しました。その成果は、秋のオープンキャンパス（10月開催）の機会に「私たちが飯舘村でやっていること、目指していること」と題して発表しました。学生は、活動を行う中で見えてきた飯舘村の課題や多くの困難の中で奮闘する村民の姿を報告し、活動を通して学んだことや目指す飯舘村復興の姿を語り合いました。当日は飯舘村の菅野典雄村長も登壇され、学生の諸活動に温かいコメントをいただきました。

特別対談「福島の未来を語る～若者の活力～」を開催

福島大学では、創立70周年記念事業として、木幡浩福島市長、中井勝己学長、学生による特別対談「福島の未来を語る～若者の活力～」を平成30年11月に開催しました。

中井学長をコーディネーターとして、木幡市長をゲストに招いて、学生代表4人が福島大学への進学理由や大学生生活の状況、福島市の魅力と課題、福島市の未来像について、若い視点から自身の考えを述べました。

中井学長が「福島市の魅力は何ですか」と質問すると、学生から「駅から歩いて行ける範囲に豊かな自然がある」「市内に4つの大学があり、大学と地域が連携できる」などの意見が出されました。木幡市長は「福島市の状況を多面的に見て、良いところを伸ばしていきたい」と応えました。当日は学生や職員ら約100名が聴講し盛会となりました。

東京・霞が関で「福島大学食農マルシェ」を開催

福島大学では、平成30年10月に文部科学省庁舎前「震テラス中央ひろば」において、「ふくしまの想いを届けよう！福島大学 食農マルシェ」を文部科学省との共催で開催しました。

東日本大震災と原発事故による放射線被害や風評など複合災害に直面した福島において、学生と地元生産者農家が協働し、安全・安心な農産物や加工品の試食・販売を行うイベントを通じて生産者と消費者との交流の場を作り、福島県産品の風評被害の払拭や福島の復興に繋げることを目的に開催しました。同時に平成31年4月に開設する農学群食農学類や大学院共生システム理工学研究科環境放射能学専攻もPRしました。

イベント当日は、文部科学大臣をはじめ多くの文部科学省幹部や国会議員等が応援に駆け付け、食農学類設置への期待など熱いエールを送るとともに、マルシェ参加学生や生産者を激励しました。

会場では、学生が地元生産者と協働して旬を迎えたリンゴの試食提供や米づくり情報発信事業「おかわり農園」の成果を披露しました。当日は文部科学省職員をはじめ霞が関界隈で働く人々など約三千人が来場し、長蛇の列ができるなど大盛況のうちに終了しました。

福島大学の新しい教育制度がスタート

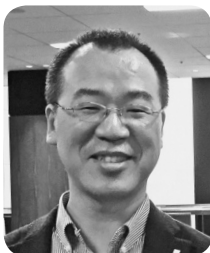
福島大学では、中井学長の下で3年半にわたり進めてきた「三位一体の改革（農学系組織設置、既存組織見直し、教育改革）」が結実し、平成31年4月から農学群食農学類を新設し、全学横断の基盤教育制度へと刷新して各学類の専門教育も見直した新しい教育制度に変わりました。加えて環境放射能研究所の研究知見を学生教育に還元する大学院共生システム理工学研究科環境放射能学専攻（修士課程）も新設し、新分野の教育研究活動もスタートしました。食農学類研究棟の建設工事も始まり、構内の風景も変わりつつあります。

教 員 異 動

日付	職名	氏名	専門講義科目等	異動内容
H31.3.31	准教授	川端 浩平	地域社会学	退職（津田塾大学へ）
H31.4.1	准教授	林 嶺那	公共政策論	採用
H31.4.1	教授	鈴木 典夫	地域福祉論	行政政策学類長（～ R3.3.31）
H31.4.1	教授	坂本 恵	言語文化論	副学類長（～ R2.3.31）
H31.4.1	特任教授	新村 繁文	刑法	所属変更（福島大学教育推進機構へ）

● 会員からの近況報告 ●

「50歳になった新人類」



平成 4 年卒業

矢野 智弘

1988年に一期生として入学してすでに31年。今年、50歳を迎えます。卒業後は小売業にて店舗勤務と本社勤務をしながら、今は人事部門の責任者として、本部にて勤務しています。

勤務先が福島大学と産学連携協定を結び、寄附講座を開催したり、また自身もキャリアモデル学習の講師として招いていただく機会もあり、ついこないだまでキャンパスを歩いていたような気がしてなりません。

新卒採用面接に来る学生がついに息子と同じ年齢となり、否が応でも年齢を感じざるをえないですが、そうやって初めて学生や若手社員たちに対する自分自身の視点・意識が変わり始めているのを実感します。入社当初からとにかく人に負けたくないという気持ちをエネルギーにして仕事にまい進していきました。今考えると独りよがりな野心のために周りの人を振り回していたなあと感じます。最近では若手の声に耳を傾けて、彼らをその気にさせて育てることが自分の役割だと考えはじめています。

店長たちと会議をすると「最近の若手はやる気がない。甘やかされすぎ。」「自分で考えないし、怒られるとすぐにへこむ。」などといった愚痴を多く耳にします。いやいや、今の若手のほうがよっぽど情報処理能力は高いし、周囲への気配りもするし、大学にもきちんと通って勉強しているよと思います。自分たちのころは新人類と呼ばれて、人類を超越した存在として扱われていたことを考えると若手のほうがよほど、優秀だと感じています。

先輩が若手を嘆くのは紀元前からで、プラトンも著作に書いてあったとかなかったとか。でも、そんな嘆きを繰り返しながら人類は滅亡せずに着実に進化してきたことを思うと、若手を育てるしかないとの思いを強くします。たまに大学の後輩が我が社にも入社してきます。温かい目で見守りつつ、彼らの成長に何か役に立てることはないかと考え、会話をする毎日です。

「大学時代を振り返って」



平成25年卒業

増田 静枝

公務員など行政関係の職に就職している人が多い、行政政策学類の卒業生が多い中で、私は民間、また民間の中でも特殊な「協同組合」という団体に就職しました。卒業生、在校生、先生方も多くご利用されていたかと思う、大学生協です。現在は東北大学生協につとめておりますが、社会人になってからの6年間、福島大学生協―東北大学生協を行き来しております。

そのため普段、大学生と接することが多いのですが、私が在学中の時と今の大学生の子達、あまり大差はないような気がします。コミュニケーションのツールは電話・メールからLINEへ、受講できる講義内容も豊富に、ファッションや時代の流行もかわり、図書館が新しくなり…大きく環境が異なりますが、異なるだけであって、大学時代に「何かがなげたい」と行動を起こす、考える、考えることは、今も昔も一緒です。

私が2年生のとき、震災を経験しました。卒業するまでにどれだけの同級生がボランティアにいき、やりたいことを考え、行動したか。将来、なりたいた姿を考え、勉強に励み、就職活動を乗り越えたか。当時、行動できた人も自分の思うままの将来にならなかった人も、大学時代を思い返すと、その時の行動や考えが社会人になった今も原動力となっている方が多いのではないのでしょうか。

大学生協でアルバイトをしている学生さんからよく、「海外短期留学に行くので」「インターンシップに参加するので」など休みの連絡をうけます。話をきくと、皆、将来のなりたいた姿や目標に向かって考え、行動をしています。なりたいた姿がないと悩む人もいます。色々なことに興味をもって、新しいことに取り組む姿があります。その姿は、私が大学生だったころとそんなに変わりはないなと強く思います。

大学生協での新入学者サポート事業では実際の学生たちが後輩たちの新生活準備をサポートします。先輩学生が口をそろえて伝えたい！と強く意見するのは、「大学でどんなことをしたいか、行動をしてみよう！行動してほしい！」ということです。その言葉は社会人になった先輩から現役の大学生の後輩へ、大学生になる高校生へと、脈々と受け継がれています。それほど、大学自体に行動したこと、考えたこと、感じたことが大きくその後の生き方に影響しているのだと強く感じているこの頃です。

● 平成30年度会務報告 ●

(H30(2018)年)

- 5 / 19 理事会(新年度予算・方針審議)
- 5 / 26 福島県庁同窓会懇親会
- 6 / 24 総会・学類30周年イベント(於：エルティ)
- 7 / 10 福大同窓会(決算役員会)
- 9 / 1 地域懇親会(仙台地区)
- 9 / 15 地域懇親会(山形地区)
- 12 / 1 学類30周年記念誌・会報(第25号)発行・発送

(H31(2019)年)

- 3 / 25 卒業記念パーティー
(於：福島グリーンパレス)



2018. 9. 1 仙台懇親会の様子



2018. 9. 15 山形懇親会の様子

● 役員名簿 ●

(平成30年度総会にて改選・任期2年)

- 会 長：★小田島拓哉
- 副会長：★小林 孝 ★小椋純一郎 ★堀江 正樹
- 監 事： 田中 康治 鈴木 貴士
- 理 事： 渡邊 弘利 ★加藤 千里 矢内 祐紀
- ★工藤 真之 鈴木 敬 ★香野 雅之
- 若松 麗葉 斉藤 雅洋 堀越 晃彦
- 増戸 大 高橋あゆみ 松本 学
- 高橋 裕樹 須藤 達也 吉田 誠
- 幹 事： 小林 良平

★は福大同窓会(全学同窓会)役員兼務

< 本会へのお問い合わせ >

お問い合わせは、ホームページの「お問い合わせ」からお願いします。

● 会員情報の修正について ●

本会ではインターネット経由で、ご自分の登録情報の参照・更新が可能な名簿システムを稼働させております。

★阿武隈会名簿システム：

<http://abukumakai.alumnet.jp>

システムの運用・保守は(株)イーストゲート(プライバシーマーク取得事業者 第21000297(06)号)へ委託しております。なお、データ保守は本会で実施しております。

名簿システムのID(学籍番号)・パスワードをご存知の方は、システムにログオンの上、修正対応をお願いします。

ご存じでない方は、阿武隈会ホームページ(<http://www.abukumakai.jp>)の「名簿パスワード要求」の記載事項を参照の上、対応をお願いいたします。

なお、本会からのご案内(郵送)を取りやめたい場合も同様にお問い合わせください。

< 重要なお知らせ >

1. 本システムでは、下記情報を必須情報とさせていただきます。

- ・ID(学籍番号) ・姓 ・名 ・生年月日
- ・現住所 ・パスワード

その他は任意項目となりますが、極力登録いただきますようお願いいたします。

2. 本システムの情報は本会会報、各種行事開催案内の送付の目的で使用します(会員名簿を紙の形で発行・頒布する予定はありません)

3. 本システムでは、会員検索機能を無効にしております。

特定会員へのお問い合わせに関しては、従来どおり事務局へお問い合わせください。

4. 名簿データへのすべてのアクセス情報はログとして記録され、管理者が閲覧可能になっています。

なお、本人の申請により本人データへのアクセスログを開示します。なお、システムにログインすることで本人によるアクセスログ閲覧も可能です。

5. 場合により、事務局で一部データを補正することがありますので、ご承知おき願います。

阿武隈会総会・懇親会のご案内

秋の夕べ おいしい福島県産品料理を食べながら
同窓生・先生方と楽しく語らいましょう！

本会規約第12条に基づき、本年度総会を下記の通り開催いたします。
なお、総会に引き続き、会員、現旧教員および現役学生を交え、懇親会を開催いたしますので、会員の皆様におかれましては、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますよう、よろしく申し上げます。

阿武隈会会長 小田島 拓哉

日時:令和元年 10月26日(土) 17:30~20:00

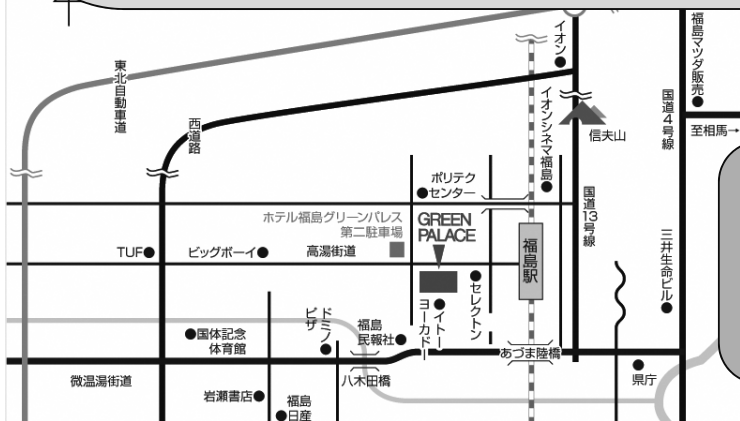
(受付は 17:00 より)

会場: ホテル福島グリーンパレス(2階葵の間)

福島市太田町 13-53(024-533-1171)

会費: 1000円 (同伴者もお一人1000円)

(同伴者の出席についても事前にご連絡ください。会費は当日受付で御支払ください)



ご招待の先生方の出席状況・イベントの詳細情報はホームページで情報提供いたします。

<参加申し込み>

10月23日(水)までに 次のいずれかの方法で申し込みをお願いします

- ①阿武隈会 Web (<http://www.abukumakai.jp/>) : 上部メニューバー『イベント参加』より
- ②Fax (024-548-8264) : フリーフォーマットで下記※の事項を記載
- ③電話 (024-548-8264) : 10/21(月)~10/23(水)に限る

※学籍番号・住所・氏名・同伴者の有無(有の場合⇒同伴者氏名と会員本人との関係を記載)

★出席表明されてからその後の状況の変化により欠席となる場合は、できるだけ早く下記までご一報願います。

・阿武隈会事務局(月~金 10:00~15:30/時間外は留守電対応) TEL&FAX:024-548-8264

E-Mail:info@abukumakai.jp